

編集後記

電車で揺られながら1時間半ほどの通勤をかれこれ30年ほど続けています。今朝、電車の中で新聞を開いたとたんに『国産ソバ4割高』の文字が目飛び込んできました。サブタイトルは「北海道で大幅不作懸念」というもの。あわてて目を通しましたが、そばの主産地である北海道では、初夏から日照不足や台風のために播種から収穫まで、全ての段階で大きな影響を受け、2018年産の卸値は前年産よりも4割高くなっているとのこと。国産農産物の振興を図るためには、根強い国産ニーズに対する安定した生産が望ましいのはいうまでもありませんが、気象条件による制約はどうしても避けられないようです。今季号の『本棚』では「気象物語」「避難の科学」そして「安全な土地」というように、我々をとりまく様々なリスクと、それを克服するため取り組みに関する書籍が紹介されていますので、これらを参考に今後の備えとしたいものです。

同じ書籍ですが、「あずき」と題する素敵な絵本が出版されました。「あずきの生長を丹念に描いた詩情あふれるかがく絵本」という見出しがついています。

『あずき かがくのとも絵本』（荒井真紀 作 株式会社 福音館書店 発行）

人、特に赤ん坊は生物学的な理由から本能的に甘いものを好むと聞いたことがあります。甘いあんこはその典型的なもの。この絵本の中では、一粒の「あずき」を地面に播くところから始まって、植物としてのあずきの生長の過程を丁寧に描いています。絵本ですから写真とは違いますが、植物学的な視点も踏まえて、芽が出て葉が開き、花が咲き、さやが膨れ、あずき色の豆が1株から300粒以上も出来上がり、あんこになるまでの過程が、子供にイメージが伝わるように上手に工夫して描かれています。著者は自然科学専門の編集プロダクション勤務を経て、現在はフリーのイラストレーターとして自然をテーマにした雑誌や書籍の挿絵の仕事をしているそうです。じゃがいも、あさがお、ひまわり、たんぼぼ、チューリップなどの絵本を手がけ、特に『チューリップ』（金の星社）でBIB（プラティスラバ世界絵本絵画展）「金のりんご賞」を受賞しています。この本の裏表紙には「読んであげるなら4才から」との説明がありますが、このような素敵な絵本によって一人でも多くの『豆ファン』が増えて欲しいものですね。

(矢野 哲男)

発行

公益財団法人 日本豆類協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル4F TEL: 03-5570-0071
FAX: 03-5570-0074

豆 類 時 報

No. 93

2018年12月20日発行

編集

公益財団法人 日本特産農産物協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル3F TEL: 03-3584-6845
FAX: 03-3584-1757
